

といふ、これを食すれば厭時氣と志るせり、又本草に鼠麴調中止洩除痰壓時氣去熱嗽雜米粉食甜美なりとあり、これを以て見れば、もろこしには鼠麴餠を用るとみえたり、又文德實錄第一卷に、田野に草あり、俗に母子草と名づく、二月に始て生ず、莖葉白してもろし、三月三日に婦女これを取て蒸し、擣て以て餠とす、傳えて歲事とすといへり、玄かれれば我國にもいにしへは鼠麴餠を用ひしと見えたり、いつの比より、鼠麴を用ひずして、艾を用ひ來りしにや、又錦繡萬花谷にいへるは、周の幽王の時、或人草餅をつくりて、幽王に奉る、幽王その味の美なることを感じて、この餅珍物なり、宗廟に獻せば、周の世大に治り、遂に太平を致べしといへり、後人此事を相傳て、三月三日に草餅を作り、祖靈にす、む、草餅のおこり是よりはじまりとなん、玄かれども此説たしかなる出所を見ず、ことに幽王のかくいへりしとて、つたへて歲事とすべき事にもあらず、たゞ附會の説なるべし、信するにたらず、歲時記の説を以て正とすべし。

〔俳諧歲時記三月〕草の餅 蓬餅 菱の餅

〔秋苑日涉六〕民間歲節上 三月三日謂之上巳、以艾糕爲節物、西京雜記曰、漢宮中九月九日佩茱萸、食蓬餅飲菊花酒、令人長壽、又曰、蓬餅以祓妖邪蓬餅也、宋史高麗傳曰、上巳日以青艾染餅爲盤羞、遼史曰、五月五日、國主及臣僚飲宴渤海厨子進艾糕、中山傳信錄曰、三月三日上巳、家作艾糕相餉、官民皆海濱禊飲、又拜節相往來、荆楚歲時記曰、三月三日取鼠麴草汁蜜酥粉、謂之龍舌粋、正字通曰、鼠麴、卽鼠耳草、土人采莖葉酥粉、擣作米果、北人呼茸母、邵桂子甕天語曰、北方寒食采茸母草酥粉食、宋徽宗詩、茸母初生認禁煙是也、按此方人在昔亦用鼠麴草、文德實錄曰、三月三日婦女采母子草爲糕、母子草、此讀曰破古草、卽鼠麴草也、

〔守貞漫稿二十六〕三月三日○中 蓬餅

古ハ如何ナル形ニ製シケン、今世ハ三都トモニ菱形ニ造リ、京坂ニテハ蓬ヲ搗交ヘ、青粉ヲ加ヘ